

# 第17回 盛岡市民演劇賞 観客賞投票結果

投票受付期間: 令和元年7月2日(火)9:00～7月14日(日)21:30まで 投票総数: 19票(うち有効票数19票)  
投票総数が最低投票数20票に満たなかったため、盛岡市民演劇賞実施要綱第5の(2)―観客賞投票要領に基づき、観客賞は不成立となりました。

公演団体	公演名	獲得票数	推薦理由
岩手大学劇団かつば	ザ・サッドスト・カオス・パンク ・オブ・キラージューン	5票	◇単純におもしろかった。 長い上演時間にもかかわらず一切退屈な場面、ありふれたセリフ、予定調和の展開がなかった。 ミラクルな力で異常な人気を得て戸惑うアイドルとサディスティックなプロデューサー。2人の関係性も、アイドルミコトをめぐる人々の愛も憎しみもすべて一面的ではなく、激しくカオスな設定の中に人間の感情の動きに説得力があった。
			◇劇を観ていて、アイデンティティを我儘に追いかけるとい事を強く感じる瞬間があった。 ピースをする人間はみんな自己中であると思う、その主張を感じた後、劇では何故か一連の騒動が現実に起きていない展開になる、けれど、客席で私は目撃できたという事実を認知できた途端、劇の存在を肯定したいと思えた。 もがいてみる瞬間がある登場人物の美しさよ、記憶のなかで演劇が救いである事をまた確認させてくれる作品でした。
			◇一番印象に残っているから。
			◇対象作品で唯一、心から泣けた。泣けるだけでなく、台詞のキレキレのコメディセンスも出色。配役も絶妙で違和感なく物語にのめり込めた。 「崇拜に似た愛」をテーマに、このカンパニーしか投げかけられない切実な問いを発していたと思う。叶うならもっともっと多くの観客に見てほしかったが、せめてこのような場で「推」させていただきたく、一票を投じたい。
			◇表現とは、観客を作り手の世界観に閉じ込めることではなく、その作品や世界観を媒体として、観客ひとりひとりの世界がより豊かになる道を、作り手が開いてあげること。 演出とは、表現者に操作を加えることではなく、どの人からも、その人でなければ語れない生きた言葉と所作を引き出すこと。 心に残るセリフの数々、脚本の構成力、テンポの緩急も優れていましたが、なによりもこれだけの出演者数を、誰一人に置き去りにすることなく舞台上で輝かせたのは、まさに本来、演劇が目指すべき姿だと感じました。 長時間なのに飽きる部分がなく、ラストへ向けての切り替えと着地方法が特に見事。 再演してほしいけれど、おそらく再演はできないであろう名作だと思います。
架空の劇団	八本桜	3票	◇屋内公演の方を観劇しました。桜をテーマにした内容、幽霊が登場するという内容の作品がお寺で上演されるのが素敵だと第一印象を受けました。 作品中に描かれた登場人物達の思いであったりこの作品自体を、来年からは桜の花弁や桜の色を見る度に思い浮かぶようになるのかなあと思い観劇後も印象的に思っていたため。 演者の方の演技も魅力的で、特に女性の方々がとても美しく感じ印象的だった。
			◇物語としても、各パートの仕事も、完成度が高かったと感じました。特に印象深かったのは、屋外版と屋内版、それぞれの照明でした。屋外版では天候や夕暮れ時の時間変化に合わせた設計、屋内版では優しい柔らかさ、素敵でした。 ダブルキャストも両方観る機会に恵まれましたが、それぞれの持ち味によって解釈にも変化がありました。 作家、劇団の新たな挑戦を感じた作品でもありました。
			◇何が現実で何が幻なのか、八本桜に迷い込んだ不思議な世界観が良かったです。 千手院野外公演の段々暗くなる中でのライティングや、専立寺本堂公演のまるで観客も舞台の世界に入ったかのような演出、それぞれとても良かったです。 演者のレベルも高いので安心して観れました。
もりげき八時の芝居小屋 第162回 八時の芝居小屋制作委員会プロデュース	バンク・バン・レッスン	2票	◇今期見た中で一番役者が生き生きしていた作品だと思う。 ◇役者一人ひとりのキャラが際立っていたこと。会話のテンポが、早かったりゆっくりだったり、リズムカルだったり…見ている側が最大限楽しむことができたから。 また、中央に舞台があることがあまりなく、魅力的であったから。
ボーイズドレッシング	ああ、どうしましょう	2票	◇役者、演出、脚本、照明、音響、装置、スタッフすべてが素晴らしく言うことなしの作品。 ◇劇作として素晴らしかったから。
架空の劇団	生還	1票	◇脚本、演出が特に良かった。故人をその人の所有物だった本から思い起こさせるというところにリアリティを感じたし、故人が研究していた「人類学」のような人文系の学問に焦点をあてていたところにもロマンを感じた作品だった。
劇団ゼミナール	無限スープ	1票	◇最低限の5本しか観ておらず迷ったのですが、一年近く前に観た芝居なのにいろいろ覚えているので、印象深かったんだな、ということで選びました。 ストーリー自体は他愛ないと言えば他愛なく、言葉の繰り返しや意味のずらしなど笑いの技法が目立ちますが、構成がよく練られていたと思います。
初代 中屋仁造	夜明けのブラザーズ	1票	◇演劇ではなく、ライブでもなく。でも演劇的であり、間違いなく本来の意味でのライブでした。 「チャレンジシアター」の名を冠するにふさわしい企画であったと思います。
もりげき八時の芝居小屋 第163回 劇団ちりぢり	みんなの美学	1票	◇かつて一緒に演劇をしていた仲間と、新しく加わった仲間と、そして観劇した私たち。みんなで10年前の彼らに改めて挑んだ、そのこと自体私たち皆ができることではないし、10年前の彼らと同じところで(もちろん形も感じかたも違うけれど)同じ年代を演劇をしながら生きているからこそ、いつか来るかもしれない未来に思いを馳せることができた。 私が今青春だと思っているものは大人になったらものすごく恥ずかしくて青いんだらうと思うけれど、今の気持ちを忘れないで、でもそこから目を背けずに挑んでいきたいなと思える経験をさせていただいたから。
劇団亜季	蜘蛛の糸「蜘蛛の糸」「藪の中」「河童」「歯車」「羅生門」「或阿呆の一生」「舞踏会」より	1票	◇役者のレベルの高さ。これぞ総合芸術。
演劇ユニットせのび	なくなりはないで	1票	◇初演以降各地で再演されている作品ですが、私は初演以来の観劇でした。 女の子を取り巻く人と、彼女のおばあちゃんを通して、目には見えなくて、すぐに無くなってしまおうような「記憶」の姿を高い純度で描いている姿勢に心を打たれました。
カンザスハリケーン	Tender Rain	1票	◇エンターテインメントがよくできていた。